

奥多摩町庁舎建設委員会 ～最終答申が提出されました～

【はじめに】

この庁舎建設委員会は、建設から57年が経過し、耐震基準と老朽化などに課題を抱える役場庁舎の建設整備に向けた取り組みを進めるために設置された町長の諮問機関で、住民委員3名を含む総勢16名の委員で構成されています。

町では、これまでに広報おくたまや町ホームページ等を通じて、会議録の公表などを含め、委員会の状況をお知らせしてきましたが、この度、全5回にわたる委員会での協議が終了し、12月22日に委員会から最終となる答申が提出されましたので、これまでの活動状況を含め、皆さんにお知らせします。

【第1回から第3回までの委員会状況及び中間答申について】

第1回委員会は、9月30日に開催され、16名の委員に委嘱状が交付されるとともに、師岡町長から松本祐一委員長（多摩大学経営情報学部教授）に諮問書が手渡され、委員会における協議が始まりました。以降、10月21日（第2回）、11月9日（第3回）に委員会が開催され、毎回、活発な議論が交わされました。（10月にはパブリックコメントも実施しました。）

11月28日には、「庁舎建設候補地及び庁舎建設基本構想に関する諮問事項」についての中間答申書が松本委員長および木村光恵副委員長（町社会福祉協議会会長）から師岡町長に提出され、庁舎建設候補地には、大氷川地内の「JR青梅線奥多摩駅東側」の土地が選定されました。ただし、「アクセスに関して、踏切や坂道等、現状の課題があるため、これらの改善に努めること」が付記されました。

また、基本構想における基本理念では、「誰もが親しみやすく訪れやすい庁舎であるとともに、地域住民の安全、安心を確保するため、災害時には、危機管理対応を果たす『防災拠点』としての機能、そして、地域コミュニティの活性化につながるような一人ひとりがイメージする『奥多摩らしさ』を併せ持つ庁舎を目指すこと」とされました。

【第4回、第5回の委員会状況及び最終答申について】

第4回委員会は、中間答申と同日の11月28日に開催され、ここからは庁舎建設基本計画の策定に向けた提言についての協議が始まり、新庁舎の基本機能を始め活発な議論が交わされました。また、最終回となる12月12日の第5回委員会では、最終答申に盛り込むべき提言内容の骨子が決まりました。

その後、12月22日には、「庁舎建設基本計画に関する諮問事項」についての最終答申書が松本委員長および木村副委員長から師岡町長に提出されました。

最終答申の内容は、基本構想の考え方をより具体化するもので、「コスト面のみならず建設候補地の敷地特性を活かした庁舎の検討、多摩産材等の木材の積極的な活用の検討、庁舎完成後も町民等が関わりを持てる屋外スペースの確保と有効活用の検討、新庁舎へのアクセスに関して安全確保のために必要な道路（通路）整備の検討」などの提言が盛り込まれました。

今後は、パブリックコメントや住民説明会などを経て、3月末までに庁舎建設基本計画を策定し、次年度以降は基本設計、実施設計作業を進める予定です。

なお、庁舎建設委員会の会議録をはじめとする各種資料は、町ホームページで随時公表しているほか、役場2階企画財政課、子ども家庭支援センターおよび保健福祉センターの窓口でも閲覧することができます。（詳細につきましては、町ホームページをご覧ください。）

※問い合わせは、企画財政課 ☎83-2360



（左から松本委員長、町長、木村副委員長）